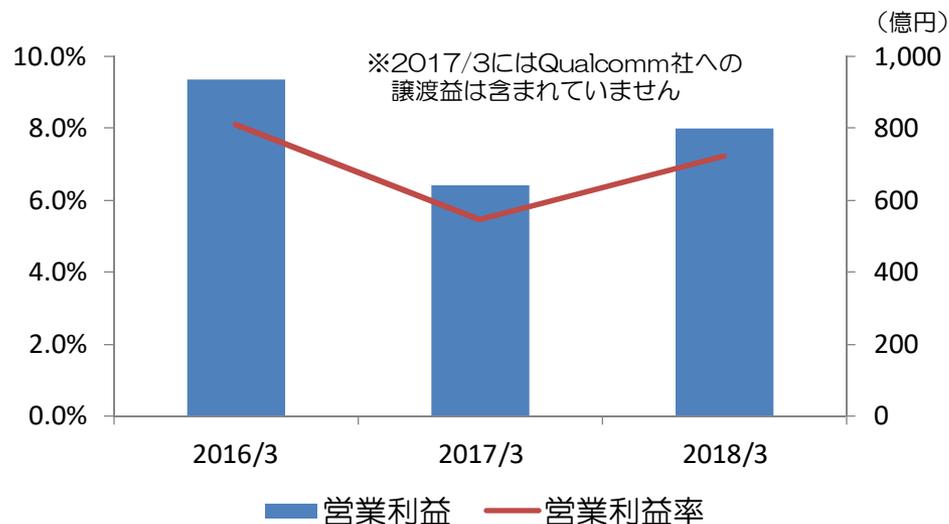


全社戦略

代表取締役社長
石黒 成直



	2018年3月期 目標 (現中期目標)	2018年3月期 計画 (今期ガイダンス)
営業利益率	10%以上	7.2%
ROE	10%以上	6.8%

◆現中期計画における想定と実績の乖離

■収益計画未達、遅れ

- ・受動部品及び二次電池の収益水準
- ・買収企業の収益貢献タイミング

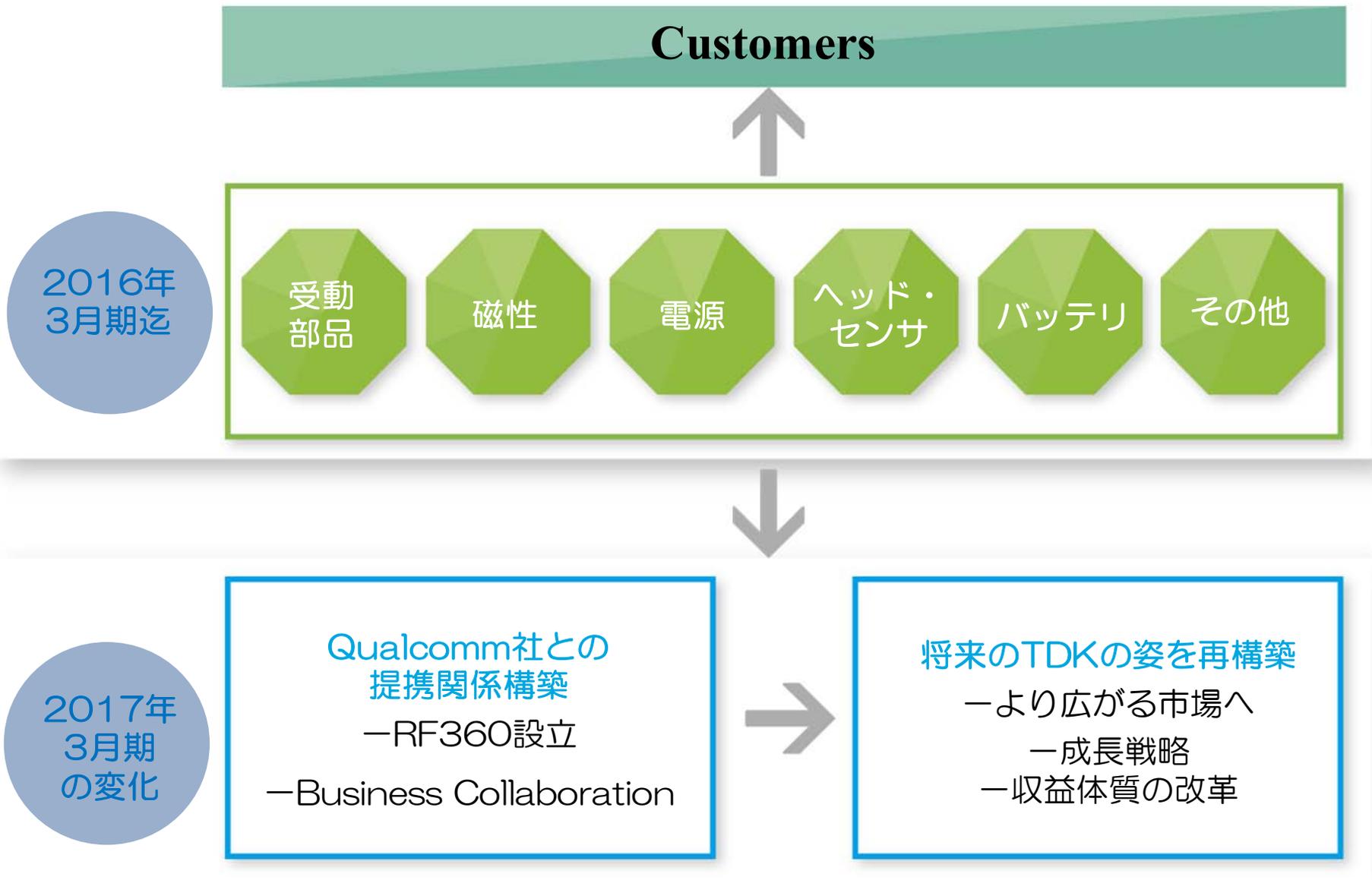
■実現しなかった施策

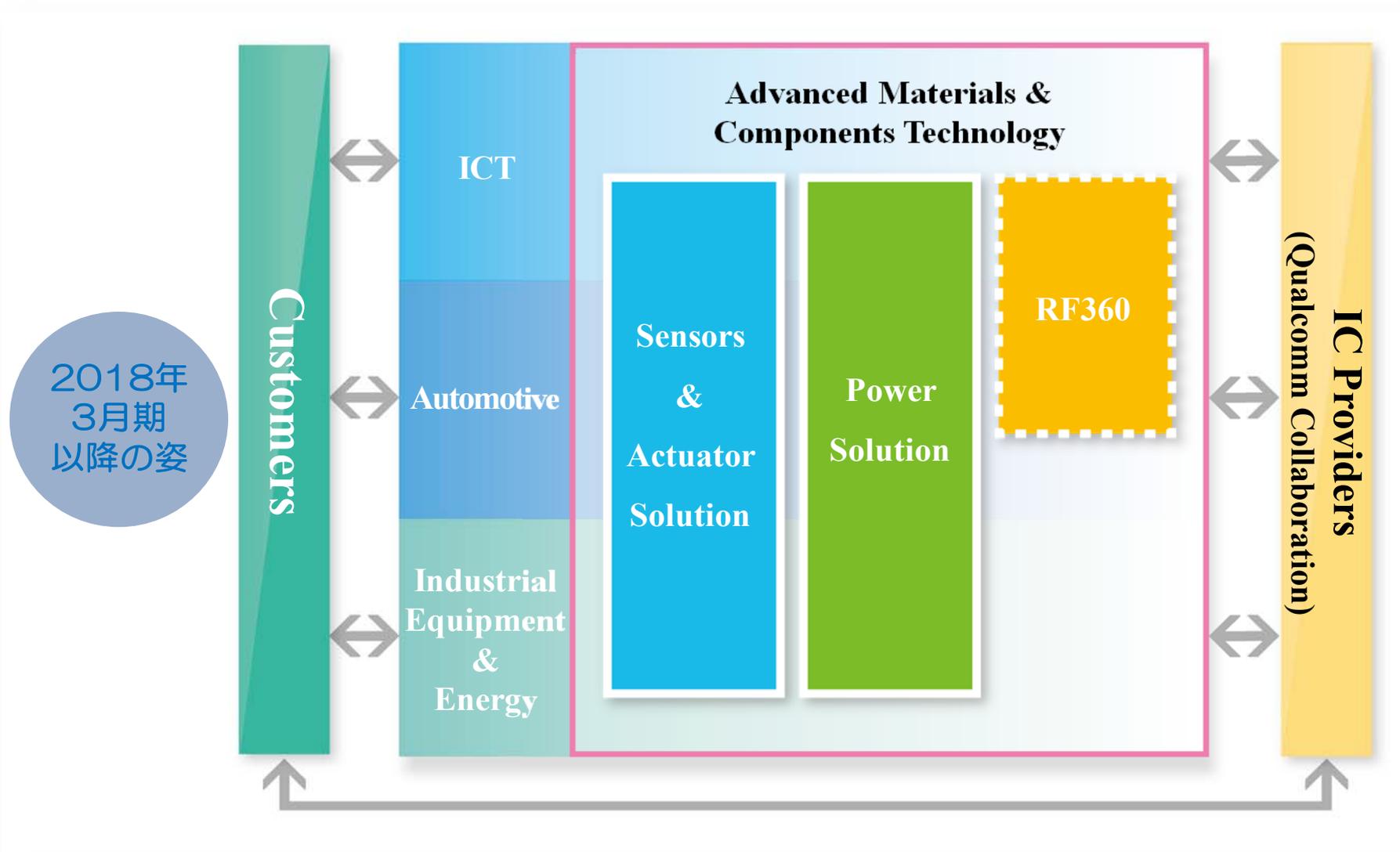
- ・事業買収
- ・一部の戦略成長製品

■事業再構築の遅れ

- ・磁石事業の収益改善

(億円)	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 業績予想
売上高	11,783	11,100
営業利益	2,087	800
営業利益率	17.7%	7.2%
税引前利益	2,117	790
当期純利益	1,451	550
1株当たり利益(円)	1,150.16	435.82





- a. 受動部品ならびに素材事業の実力アップ
- b. センサ事業の統合とスピーディな立ち上げ
- c. エナジー関連事業の再構築と体制整備
- d. HDDヘッド関連事業の長期収益性維持

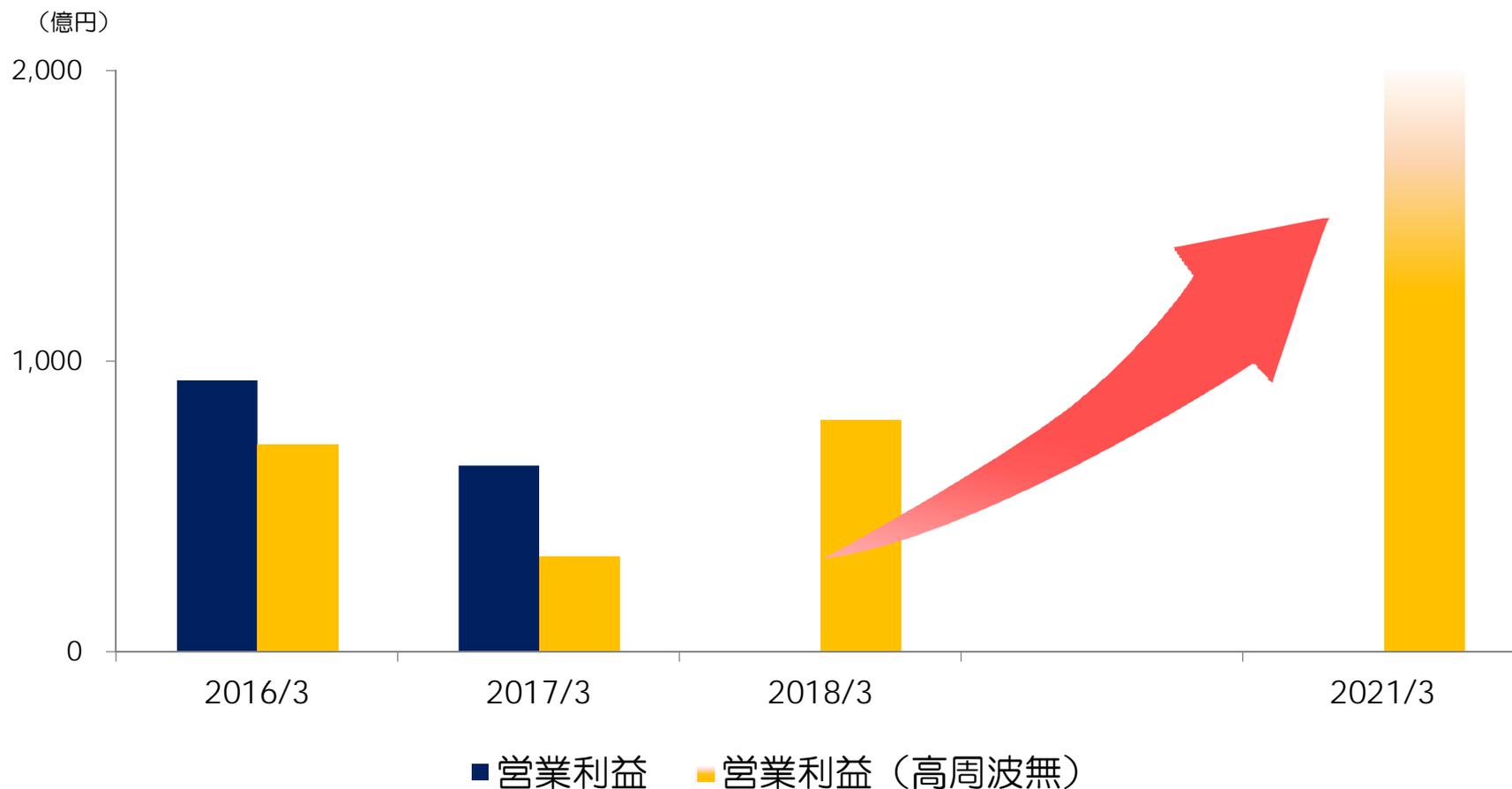
- ① モノづくり力の強化を進め、QCD競争力を向上する
- ② Qualcomm社との提携を最大限に活用し、付加価値の高い製品をFirst To Marketで実現する
- ③ 小型・低背化の飽くなき追求を継続する（薄膜 & SESUB）
- ④ 素材事業の原点である磁性事業を抜本的に再構築する

- ① 分散していた組織を統合し、ボーダーレスなマーケティング・R&D体制を実現する
- ② センシングのコア技術・素材技術にIC技術・パッケージ技術を融合し、高機能・高付加価値のセンシングソリューションを提供する
- ③ 既存センサ製品の顧客基盤を拡大する

- ① 民生用バッテリーのリーディングメーカーとして最高のパフォーマンスと信頼性を提供する
- ② 一連のエナジー関連製品群を素材・部品から垂直統合した強みで拡大する
- ③ 将来の事業拡充のための体制整備を開始

- ① 顧客が必要とする技術をタイムリーに提供し続ける
- ② リーンなオペレーションを実行できる体制を作る
- ③ サスペンションならびに関連事業の収益力を改善する

※1.高周波部品事業(2017年2月にカーブアウト)は
2016/3と2017/3にのみ含まれています
※2.Qualcomm社への譲渡益は2017/3に含まれていません



この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。

